

Japanese Literature

7



谷崎潤一郎集

〈監修委員〉

伊藤 整

井上 靖

川端 康成

三島由紀夫

〈編集委員〉

足立 卷一

奥野 健男

尾崎 秀樹

北 杜 夫

（五十音順）

学習研究社

現代日本の文学

7

谷崎潤一郎 集

全50巻

分割払価格 39,000円

現金価格 35,500円

昭和44年12月1日 初版発行

昭和48年2月1日 八版発行

著者 谷崎潤一郎

発行者 古岡秀

発行者 株式会社 学習研究社

東京都大田区上池台4-40

郵便番号 145 振替東京1295

電話 東京(720)1111 (大代)

印刷 大日本印刷株式会社

中央精版印刷株式会社

製本 中央精版印刷株式会社

本文用紙 三愛製紙株式会社

表紙クロス 東洋クロス株式会社

製函 日本紙パルプ商事株式会社

*この本に関するお問合せや、スなどがありましたら、
文書は東京都大田区上池台4丁目40番5号(〒145)
「ユーザー・サービス本部事務局」現代日本の文学係
電話は、東京(03) 720-1111 内線352,353か、東京
727-1600へお願いします。

© 1963 Printed in Japan

0393-164 607





恰も当時滋幹は、しばしば
叡山の横川に定心房良源を
訪ねて仏の教を聴いていた
ので、彼がもしその帰るさ
に道を雲母坂に取って下山
したならば、つい母の住む
麓の里へ出られたのであつ
た。
(少将滋幹の母)

まだ山国は肌寒い四月の中旬の、
花ぐもりのしたゆうがた、^{しらね}白々と遠くほやけた空の下を、
川面に風の吹く道だけ細かいちりめん波を立てて……（吉野葛）
左・吉野花吹雪。はるかに如意輪寺を望む。



吉野宮跡・南朝妙法殿（「吉野葛」）

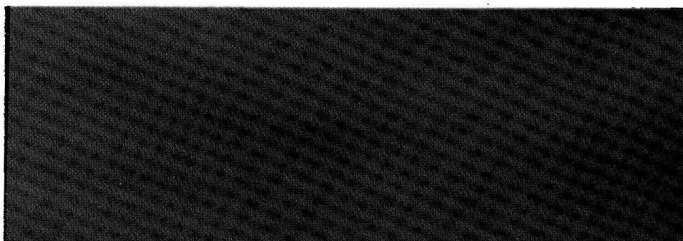






「吉野」の世界をおおる

大台ヶ原より吉野山、生駒山を望む(「吉野葛」)





めつきりと冷える朝ではあ
たが、そこはうしろになだ
かな斜面を持った山を繞ら
た、風のあたらない、なご
かな日だまりになった一廓
三四軒の家が孰れも紙をす
ていた。

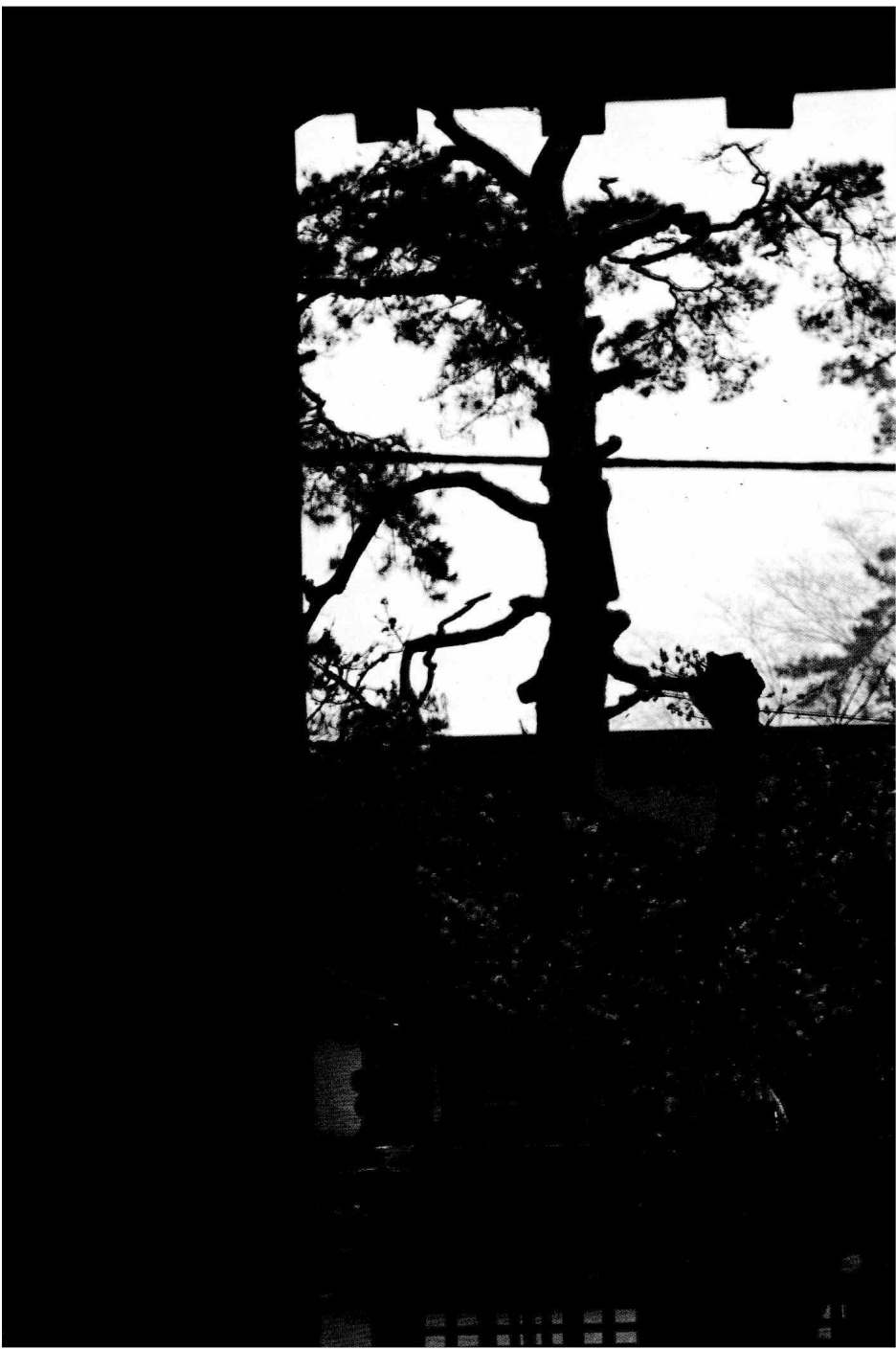
（「吉野葛」

上・国栖の人々。吉野川
水に「こうぞ」をさらす





比叡山、横川付近。左手に如法塔を望む(「少将滋幹の母」)



あれは渡殿の軒に近く紅梅が綻び
ていたことを思うと、或る春の日
のことであつたのは間違いないが、
彼が西の村屋の簀子のところで、
二三人の女童を相手に遊んでいる
と……。

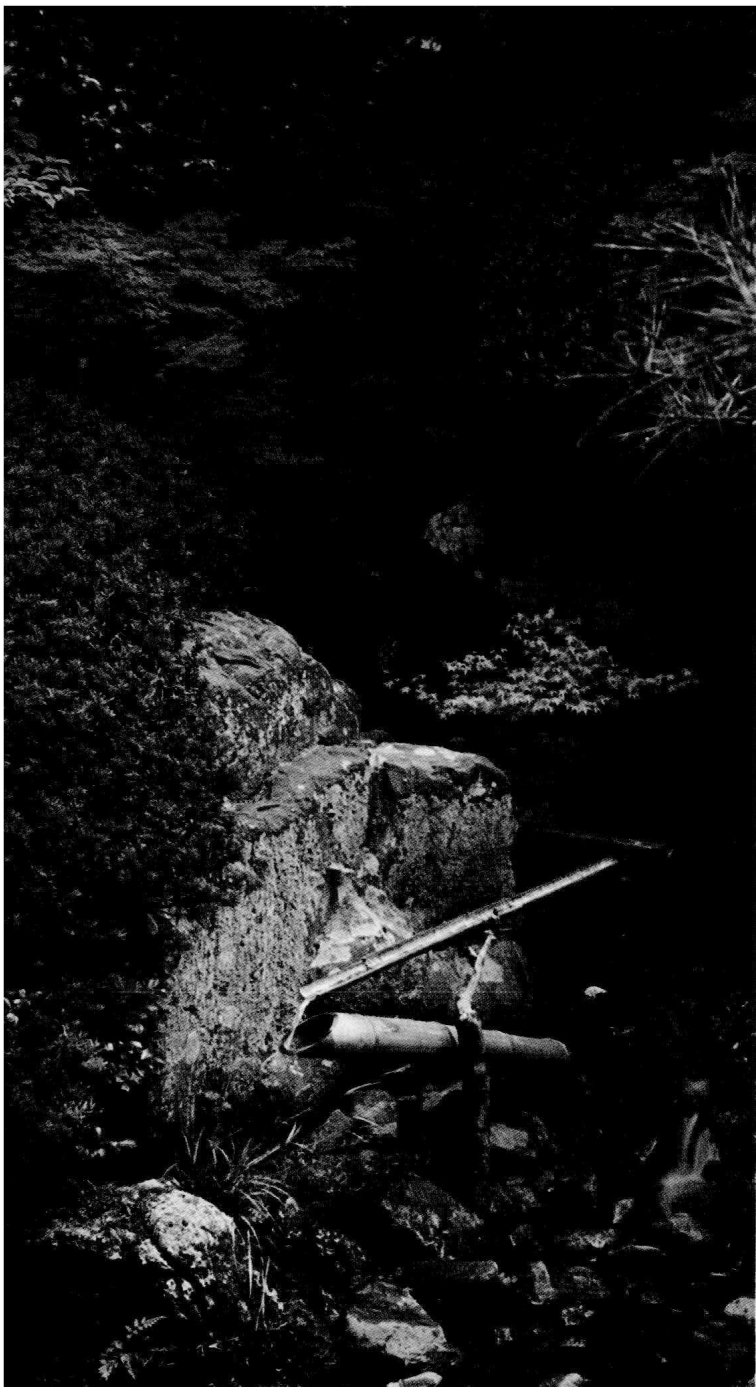
（「少将滋幹の母」）
咲き誇る京都北野天満宮の紅梅





石藝の路次の奥にもう一つ中門があった。路次の両側にはささやかな竹が植わって、朝鮮から運んで来たらしい李朝の官人の石像が二つ相對していた。

京都、旧潺湲亭（現石村亭）の石盤の路次
（「夢の浮橋」）



流れが池に落ちる途中に、
青竹で造った添水と云う
ものが仕掛けてあって…
…。
〔夢の浮橋〕



森の森 往昔の清冽な小川の跡を静かに残して(夢の浮城)